

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-31114

(43) 公開日 平成11年(1999)2月2日

| | |
|---------------------------|-------|
| (51) Int.Cl. ^o | 識別記号 |
| G 0 6 F 13/00 | 3 5 1 |
| 3/14 | 3 2 0 |
| H 0 4 L 12/24 | |
| 12/26 | |

F I
G 0 6 F 13/00 3 5 1 N
3/14 3 2 0 A
H 0 4 L 11/08

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 13 頁)

(21)出願番号 特願平9-185299

(22)出願日 平成9年(1997)7月10日

特許法第64条第2項ただし書の規定により図面第3図、10図の一部は不掲載とした。

(71) 出願人 000005832
松下電工株式会社
大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 石田 美津代
大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株
式会社内

(72) 発明者 秋元 正夫
大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株
式会社内

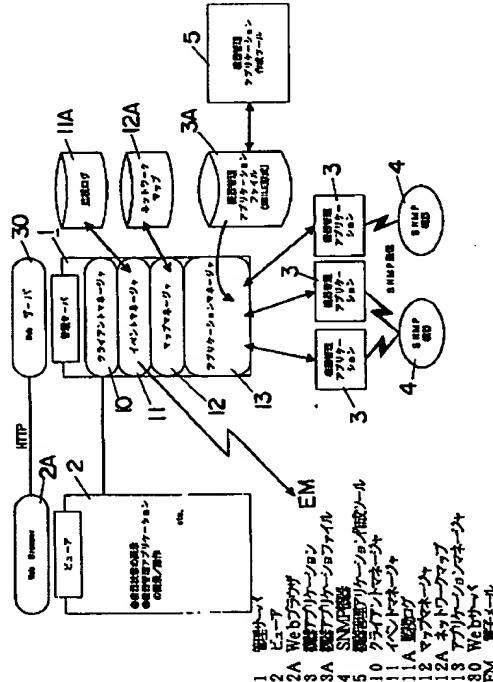
(74) 代理人 弁理士 西川 高清 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ネットワークリモート管理システム

(57) 【要約】

【課題】多様化するネットワークを一元的且つ効率的に管理することができるネットワークリモート管理システムを提供することにある。

【解決手段】管理サーバ1はWebブラウザ2A上でのピュア2から受け取った要求に応じて、SNMP機器4に対し、機器管理アプリケーション3を起動させたり、停止させる。この機器管理アプリケーション3はテキストファイルからなる機器管理アプリケーションファイル3Aから構築される。ネットワーク管理者は機器管理アプリケーション作成ツール5を使用して、このテキストファイルを自由に作成することが可能であるため、それぞれのネットワーク構成に応じて、監視対象となる機器に対し監視すべきMIBのIDとトラブルイベントの発生レベルを設定することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】ネットワークに接続された管理プロトコルを実装する機器を遠隔管理するシステムであって、遠隔地からネットワークに接続された管理サーバにアクセスして、機器管理アプリケーションのGUIに関する情報を前記機器に関する情報をダウロードして、これらの情報に基づきGUIを構築し管理すべき情報をWebブラウザに表示するビューアと、前記管理サーバに設けられ、前記ビューアからの要求を受けて、前記機器に対し設定された、管理項目及びイベントの情報に基づいて前記機器を定期的に監視する機器管理アプリケーションを起動又は停止すると共に、設定されたイベントが発生した場合に、そのイベントに対して設定されたアクションを実行する管理サーバとを備えたことを特徴とするネットワークリモート管理システム。

【請求項2】管理サーバは、設定されたイベントが発生した場合に、ネット管理者に、イベントが発生したことを伝える電子メールを送信することを特徴とする請求項1記載のネットワークリモート管理システム。

【請求項3】前記ビューアに表示される、機器管理アプリケーションの、パネルまたはダイアログのGUIを構築するための情報と、該機器管理アプリケーションが監視する管理項目に関する情報と、該機器管理アプリケーションが監視するイベントに関する情報を格納した機器管理アプリケーションファイルに基づいて、前記管理サーバが、該機器管理アプリケーションを起動することを特徴とする請求項1記載のネットワークリモート管理システム。

【請求項4】前記ビューアは、前記ネットワークからJ A V A (登録商標) アプレットとしてダウロードされたプログラムであり、前記J A V Aアプレットは、前記機器管理アプリケーションファイルを読み込んでGUIを構築することを特徴とする請求項1記載のネットワークリモート管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ネットワークリモート管理システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】企業の情報化の進展、インターネットの普及に伴って企業が保有するネットワークの規模は飛躍的に増大し、その維持管理に膨大なコストがかかるようになってきている。クライアントサーバに代表されるネットワークの分散化、マルチプロトコル化、ネットワーク機器のマルチベンダー化などネットワーク環境の多様化が進展しており、このようなネットワークを一元的且つ効率的に管理することが課題となってきた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記のようにネットワークの管理業務に関してまだまだ認識が浅く、多くの組

織で明確な業務として規定されずに特定の人員がボランティア的に管理業務を分担していたり、業務内容、業務量が不明確なままアウトソーシングし大きなコスト負担になっていたりするのが現状である。

【0004】本発明は上記の点に鑑みて為されたもので、請求項1の発明の目的とするところは、多様化するネットワークを一元的且つ効率的に管理することができるネットワークリモート管理システムを提供することにある。また請求項2の発明の目的とするところは、請求項1の発明の目的に加えて、メールサーバにアクセスできる場所であれば、どこからでもイベントの発生を確実に知ることができるネットワークリモート管理システムを提供することにある。

【0005】請求項3の発明の目的とするところは、請求項1の発明の目的に加えて、機器管理アプリケーションファイルを書き換えるだけで、管理項目、イベントの設定変更、追加等が容易に行なえるネットワークリモート管理システムを提供することにある。請求項4の発明の目的とするところは、請求項1の発明の目的に加えて、Webブラウザが実装されている端末であれば、どの端末からでも、また、どこからでもリモート管理が行なえるネットワークリモート管理システムを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項1の発明では、ネットワークに接続された管理プロトコルを実装する機器を遠隔管理するシステムであって、遠隔地からネットワークに接続された管理サーバにアクセスして、機器管理アプリケーションのGUIに関する情報を前記機器に関する情報をダウロードして、これらの情報に基づきGUIを構築し管理すべき情報をWebブラウザに表示するビューアと、前記管理サーバに設けられ、前記ビューアからの要求を受けて、前記機器に対し設定された、管理項目及びイベントの情報に基づいて前記機器を定期的に監視する機器管理アプリケーションを起動又は停止すると共に、設定されたイベントが発生した場合に、そのイベントに対して設定されたアクションを実行する管理サーバとを備えたことを特徴とする。

【0007】請求項2の発明では、請求項1の発明において、管理サーバは、設定されたイベントが発生した場合に、ネット管理者に、イベントが発生したことを伝える電子メールを送信することを特徴とする。請求項3の発明では、前記ビューアに表示される、機器管理アプリケーションの、パネルまたはダイアログのGUIを構築するための情報と、該機器管理アプリケーションが監視する管理項目に関する情報と、該機器管理アプリケーションが監視するイベントに関する情報を格納した機器管理アプリケーションファイルに基づいて、前記管理サーバが、該機器管理アプリケーションを起動することを

特徴とする。

【0008】請求項4の発明では、前記ビューアは、前記ネットワークからJAVAアプレットとしてダウンロードされたプログラムであり、前記JAVAアプレットは、前記機器管理アプリケーションファイルを読み込んでGUIを構築することを特徴とする。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。図2は本発明のリモート管理の概念構成を示しており、本発明のリモート管理は図示するようにネットワークLANを無人のネットワーク管理装置AでネットワークLANの監視を行い、トラブルが監視対象のネットワーク機器に発生すると、遠隔地の管理者側のクライアントBに電子メールで通報されるようになっており、端末BではWebブラウザでネットワーク管理装置Aにアクセスしネットワーク機器の状況や現在までのログ情報を確認するようになっている。

【0010】図1は本発明の実施形態を示しており、図1に示すように大きく別けて、ネットワーク管理装置A側での管理サーバ1と、機器管理アプリケーション3と、クライアントB(端末)側でのビューア2とから構成される。管理サーバ1はWebブラウザ2A上でのビューア2からWebサーバ30を通じて受け取った要求に応じて、SNMP(Simple Network Management Protocol)を実装したデバイスたるSNMP機器4に対し、機器管理アプリケーション3を起動させたり、停止させる。この機器管理アプリケーション3は後述する簡易管理インターフェース言語SMILE(Simple Management Interface Language)で書かれたテキストファイルからなる機器管理アプリケーションファイル3Aから構築される。ネットワーク管理者は機器管理アプリケーション作成ツール5を使用して、このテキストファイルを自由に作成することが可能であるため、それぞれのネットワーク構成に応じて、監視対象となる機器に対し監視すべきMIB(Management Information Base)のIDとトラブルイベントの発生レベルを設定することができる。またftpを用いて遠隔地から機器管理アプリケーションファイル3Aを供給、上書きすることもできる。

【0011】機器管理アプリケーション3は設定されたMIBを定期的に監視して、イベントが発生すると電子メールEMでネットワーク管理者にメールサーバ(SMTPサーバ)【図示せず】を通じて通報を行なう。管理サーバ1は、下記の4つの機能モジュールから構成される。図2で示す実施形態では小型のボックスに組み込むことを想定しているが、Javaアプリケーションとしてパーソナルコンピュータ上に実装しても良い。

【0012】4つの機能モジュールとは、クライアントマネージャ10と、イベントマネージャ11と、マップ

マネージャ12と、アプリケーションマネージャ13とであり、クライアントマネージャ10は管理サーバ1にアクセスを行なうクライアント(ビューア2)からの要求の受信や返信処理を行なうためのものである。またイベントマネージャ11はトラブル等のイベント発生の記録とネットワーク管理者への電子メールEMによる通報を行なうためのものであり、イベント発生時に監視ログ11Aへの書き込みを行なうようになっている。

【0013】マップマネージャ12は管理対象であるネットワークマップ12Aの管理およびPINGによる機器の稼働、非稼働状態の監視を行なう。アプリケーションマネージャ13は機器管理アプリケーション3…の起動及び停止を行なうためのものである。ここで機器管理アプリケーション3…とは特定のSNMP機器4…に対応した機器パネルなどを表示し、グラフィカル・ユーザ・インターフェイス(GUI)で管理情報を表示、設定するためのものである。尚SNMPの管理情報の集合であるMIBには、標準であるMIB-IIのほかに、ペンド、機種に固有なエンタープライズMIBがある。エンタープライズMIBを使用するSNMP機器には、それに対応する機器管理アプリケーションが必要となるが、本実施形態のシステムでは機器管理アプリケーション作成ツール5を使用することにより、この機器管理アプリケーション3…を自由にカスタマイズすることができる。

【0014】実際に管理サーバ1側で起動されるのは、設定されたMIB情報に基づきSNMP通信でSNMP機器4…を監視する通信モジュールであり、GUIモジュールはビューア2側に構築される。ビューア2はJAVAアプレット(Java Applet)で実装され、Webサーバ30からWebブラウザ2AによりHTTPを用いてダウンロードされる。ビューア2の表示に必要なデータ、つまりネットワークマップ12Aや機器管理アプリケーション3のGUIも全てWebサーバ30側に格納してあり、必要に応じてダウンロードされる。

【0015】またビューア2はネットワークマップ12Aに登録された機器に対して、機器管理アプリケーション3…の起動/停止要求を行なうことができる。起動されている機器管理アプリケーション3…に対しては図3に示すようにWebブラウザ2A上のビューア2によって表示されたパネル表示画面50で操作することにより操作パネル51を表示することができる。この操作パネル51が機器管理アプリケーション3…のGUIモジュールに相当する。そしてMIBの状態に変化が生じると、管理サーバ1側から表示のアップデートが行われる。

【0016】機器管理アプリケーション作成ツール5はコーディングレスでビジュアルに機器管理アプリケーション3…を作成できるエディタからなり、その機器管理

アプリケーション作成ツール5を実装したツール装置に設けた表示部には機器管理アプリケーション作成ツール5を実行時に図4に示す様な作成画面60が表示される。この機器管理アプリケーション作成ツール5は表1に示した種類のコントール（アイテム）をウインドウ上に配置し、これらコントロール（アイテム）に監視対象のMIBや操作時のアクション等を設定するだけで機器管理アプリケーション3を作成することができ、短い期間でマルチベンダー環境のネットワークにも容易に対応することができるようになっている。

【0017】

【表1】

| コントロール | 機能 |
|-----------|---------------------------------------|
| テキスト | MIBの値のテキスト表示 |
| エディットボックス | MIBの値のテキスト表示 MIBの値の変更 |
| ボタン | MIBの値のセット ダイアログのアップデート 他ダイアログ起動 |
| 透明ボタン | MIBの値のセット ダイアログのアップデート 他ダイアログ起動 |
| チェックボックス | MIBの値のトグル |
| ラジオボタン | MIBの値を複数の候補から選択 |
| コンボボックス | MIBの値を複数の候補から選択 |
| リストボックス | MIBの値をテキスト表示 MIBの値の変更 他ダイアログ起動 |
| グループボックス | MIBの値のテキスト表示 |
| アイコン | MIBの値で変化するアイコンの表示 |
| ピットマップ | MIBの値で変化するピットマップの表示 |
| LED | MIBの値で色が変化するLEDの表示 |
| グラフ | MIBの値のグラフ表示 |
| イベント | イベントの監視と送信 |

【0018】尚各コントロール（アイテム）には夫々固定された複数の処理メソッドが含まれ、どのような処理が含まれているかは各コントロールによって決まっており、ネットワークの管理者は、この処理に対して入力する変数を指定したり、どの処理を行なうかを選択できるようになっている。機器管理アプリケーション作成ツール5で作成された機器管理アプリケーション3は上述したようにそのデータ部分が機器管理アプリケーションファイル3Aとして保存され、管理サーバ1とビューア2とから参照される。

【0019】機器管理アプリケーションファイル3Aは、簡易管理インターフェイス言語（Simple Management Interface Language以下SMILEと略す）で書かれたテキストファイルであり、図9は簡易管理インターフェース言語で作成された機器管理アプリケーションファイル3Aの一例を示す。

【0020】このテキストファイルには、ビューア2でのパネル表示に必要なGUI情報と管理サーバ1でのSNMP通信に必要な情報及びイベントトリガ情報が含まれている。ダイアログの情報としては、キャプション、

座標などがある。コントロール（アイテム）の情報としては、種類、座標、関連するMIBのオブジェクトID、イベント条件等がある。

【0021】SMILEは処理を記述するプログラミング言語ではなく、静的な属性を記述するものであり、変数等の動的な情報やループや分岐などの制御文は含まれず、リソースの記述に徹している。ユーザは通常のGUI構築ツールのようにコールバック関数を記述することなく、限られた範囲のアクションを選択するようになっている。このようにすることで機器管理アプリケーションの仕様を簡略化できる。

【0022】またSMILEは階層構造を持ち、ダイアログの情報はキーワード”DIALOG”から、キーワード”ENDDIALOG”の間にあり、ダイアログの属性とコントロール（アイテム）の情報が含まれている。コントロールの情報はキーワード<コントロール名（”GRAPH”, ”BUTTON”など）>から”ENDITEM”の間にあり、コントロールの属性と変換の情報が含まれている。

【0023】図5乃至図7は使用したSMILEの仕様を示しており、図5はROOTモードと、DIALOGモードで使用されるキーワードの仕様を示し、図6はITEMモードで使用されるキーワードの仕様を示し、図7はLISTモードと、CONDITIONモードと、VALUEモードと、EQUATIONモードとで使用されるキーワードの仕様を夫々示しており、「ROOT」、「DIALOG」、「ITEM」、「LIST」、「CONDITION」、「VALUE」、「EQUATION」の各モード（定義部）には、それぞれのモードで使用できるキーワードが定義されて、各キーワードには対応した意味付けが為され、デフォルト値や、対応する値又は値の型が設定されている。

【0024】図8はSMILEの各キーワードを使用した場合のモードの遷移を示しており、この遷移図に基づいて使用できるキーワードが限定されてファイルは記述されることになる。図9に示す機器管理アプリケーションファイル3Aは上記SMILEの言語を用いて記述されており、この図9の場合第1行はダイアログ定義部の開始を示す行であり、第2行はダイアログの座標を示し、第3行はダイアログのキャプションが”text”であることを示し、第4行はポーリングの間隔が10（秒）であることを示し、第5行はグラフアイテム定義部の開始を示し、第6行はグラフの最大値（=1500）を示し、第7行はアイテム（グラフ表示）の座標を示し、第8行は取得するMIBのオブジェクトIDを示し、第9行は定期的にポーリングを行なうことを示し、第10行はアイテム定義部の終了を示す。第11行はイベントアイテム定義部の開始を示し、第12行は”Event”というテキストを示し、また第13行はアイテムの座標を示し、第14行は条件定義部の開始を示し、

第15行は条件が真のときにメールを送信することを意味することを示し、第16行は式定義部の開始を示し、第17行は評価するMIBのオブジェクトIDを示し、第18行はMIBの値の前回からの差分を時間で割ったものを評価することを示し、第19行はMIBの値<=Lを示し、第20行はMIBの値と比較する値(=1500)を示し、第21行は式定義部の終了を示し、第22行はVALUE定義部の終了を示し、そして第23行は条件定義部の終了を示し、第24行はアイテム定義部の終了を示し、第25行はダイアログ定義部の終了を示している。

【0025】而して、図9に示す機器管理アプリケーションファイル3Aに対応する機器管理アプリケーション3をビューア2から起動すると、管理サーバ1上に機器管理アプリケーション3の実行スレッドが構築される。このスレッドはrptrMonitorPortReadableFrames。1のMIBを定期的に監視し、グラフコントロールの表示を行なうためのデータ収集を行なうとともに、毎秒のパケット数が1500をオーバーしないかを監視する。パケット数が1500を越えた際にはイベントマネージャ11にメッセージが通知され、イベントマネージャ11からネットワーク管理者に電子メールEMが送信される。

【0026】管理者はWebブラウザ上のビューア2により図10に示すように機器管理アプリケーションパネル52でグラフ53を表示させて現状を確認するとともに、図4に示すような機器パネルをイメージした別の機器管理アプリケーション3を起動させることによりさらに詳細な情報の表示や機器に対する表示や機器に対する制御を行なうことができる。

【0027】以上のように本実施形態では、多様化するネットワークを一元的且つ効率的に管理することができ、ネットワーク管理者不足を解決することができる。つまり、リモートアクセスによって遠隔地のネットワークを管理するので、ネットワークが構築されている現場に専任のネットワーク管理者を配置する必要がなく、ネットワーク管理者が、構成の異なる複数のネットワークを、1つのWebブラウザ(ビューアを含む)で管理することができるのでネットワーク管理者が少なくて済む。またビューア2は、広く普及したWebブラウザ2Aに表示を行うように構成されているので、使用する上で特別なトレーニングを必要とせず、ネットワーク管理者を養成する上で有利である。

【0028】更にネットワーク管理者が、構成の異なる複数のネットワークを、1つのWebブラウザ2A(ビューア2を含む)で管理することができるので、低コスト化が図れる。また市場のネットワーク関連製品に、機能設定等のためにWebブラウザインターフェースが組み込まれる傾向にあり、そのようなアプリケーションと相互運用して利用することにより、より効果的な管理が

実現できる。

【0029】またイベントの発生を電子メールEMにより知ることができるので、そのためリモートネットワーク管理システムを立ち上げていなくても、メールサーバにアクセスできる場所であれば、どこからでもイベントの発生を確実に知ることができる。しかも電子メールEMの自動転送、ポケットベルへの転送等が容易に行えるので、それらの機能を用いれば、より確実に素早い対応が可能となる。

【0030】全てのデータが機器管理アプリケーションファイル3Aに括定義され、アプリケーション(ビューア2、管理サーバ1に設けられたアプリケーションマネージャ13)と完全に分離されており、またビューア2は、表示に必要な情報を全て管理サーバ1に設けられた機器管理アプリケーションファイル3AからダウンロードしてGUIを構築するように構成され、管理サーバ1に設けられたアプリケーションマネージャ13も、機器管理アプリケーションファイル3Aに基づいて機器管理アプリケーション3を起動するように構成されているので、機器管理アプリケーションファイル3Aを書き換えることにより、管理項目、イベントの設定変更、追加等が容易に行え、短期間でマルチベンダー環境のネットワークにも容易に対応することができる。

【0031】ビューア2を、JAVAアプレットで構成することによって、ネットワークにリモート接続でき、Webブラウザ2Aが実装されている端末であれば、どの端末からでも、またどこからでもリモート管理が行なえ、端末の機種、OSを限定しないシステムを構築できるという効果がある。

【0032】【発明の効果】請求項1の発明は、ネットワークに接続された管理プロトコルを実装する機器を遠隔管理するシステムであって、遠隔地からネットワークに接続された管理サーバにアクセスして、機器管理アプリケーションのGUIに関する情報及び前記機器に関する情報をダウンロードして、これらの情報に基づきGUIを構築し管理すべき情報をWebブラウザに表示するビューアと、前記管理サーバに設けられ、前記ビューアからの要求を受けて、前記機器に対し設定された、管理項目及びイベントの情報に基づいて前記機器を定期的に監視する機器管理アプリケーションを起動又は停止すると共に、設定されたイベントが発生した場合に、そのイベントに対して設定されたアクションを実行する管理サーバとを備えたので、多様化するネットワークを一元的且つ効率的に管理することができ、ネットワーク管理者不足を解決することができるものであって、リモートアクセスによって遠隔地のネットワークを管理するので、ネットワークが構築されている現場に専任のネットワーク管理者を配置する必要がなく、ネットワーク管理者が、構成の異なる複数のネットワークを、1つのWebブラウザ(ビュ

アを含む)で管理することができるのでネットワーク管理者が少なくて済み、またビューアは、広く普及したWebブラウザに表示を行うように構成されているので、使用する上で特別なトレーニングを必要とせず、ネットワーク管理者を養成する上で有利であり、更にネットワーク管理者が、構成の異なる複数のネットワークを、1つのWebブラウザ(ビューアを含む)で管理することができるので、低コスト化が図れるという効果もあり、しかも市場のネットワーク関連製品に、機能設定等のためにWebブラウザインターフェースが組み込まれる傾向にあるから、そのようなアプリケーションと相互運用して利用することにより、より効果的な管理が実現できるという効果がある。

【0033】請求項2の発明は、請求項1の発明において、管理サーバが、設定されたイベントが発生した場合に、ネット管理者に、イベントが発生したことを伝える電子メールを送信するので、イベントの発生を電子メールにより知ることができ、そのためリモートネットワーク管理システムを立ち上げていなくても、メールサーバにアクセスできる場所であれば、どこからでもイベントの発生を確実に知ることができ、また、電子メールの自動転送、ポケットベルへの転送等が容易に行えるので、それらの機能を用いれば、より確実に素早い対応が可能となるという効果がある。

【0034】請求項3の発明は、前記ビューアに表示される、機器管理アプリケーションの、パネルまたはダイアログのGUIを構築するための情報と、該機器管理アプリケーションが監視する管理項目に関する情報と、該機器管理アプリケーションが監視するイベントに関する情報を格納した機器管理アプリケーションファイルに基づいて、前記管理サーバが、該機器管理アプリケーションを起動するので、全てのデータが機器管理アプリケーションファイルに一括定義され、アプリケーション(ビューア、管理サーバに設けられたアプリケーションマネージャ)と完全に分離でき、またビューアは、表示に必要な情報を全て管理サーバに設けられた機器管理アプリケーションファイルからダウンロードしてGUIを構築するように構成され、管理サーバに設けられたアプリケーションマネージャも、機器管理アプリケーションファイルに基づいて機器管理アプリケーションを起動するよう構成されているので、機器管理アプリケーションファイルを書き換えることにより、管理項目、イベントの設定変更、追加等が容易に行え、短期間でマルチベンダー環境のネットワークにも容易に対応することができるという効果がある。

【0035】請求項4の発明は、請求項1の発明において、

ビューアをネットワークからJAVAアプレットとしてダウンロードされたプログラムで構築し、前記JAVAアプレットが、前記機器管理アプリケーションファイルを読み込んでGUIを構築するので、ネットワークにリモート接続でき、Webブラウザが実装されている端末であれば、どの端末からでも、またどこからでもリモート管理が行なえ、端末の機種、OSを限定しないシステムを構築できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態のシステム構成図である。

【図2】同上の概念的な構成図である。

【図3】同上の操作パネルの表示例図である。

【図4】同上の機器管理アプリケーションファイル作成装置の表示部の表示例図である。

【図5】同上の機器管理アプリケーションファイル作成に用いる言語の機器管理アプリケーションファイル階層の仕様の説明図である。

【図6】同上の機器管理アプリケーションファイル作成に用いる言語の機器管理アプリケーションファイル階層の仕様の説明図である。

【図7】同上の機器管理アプリケーションファイル作成に用いる言語の機器管理アプリケーションファイル階層の仕様の説明図である。

【図8】同上の機器管理アプリケーションファイル階層の遷移図である。

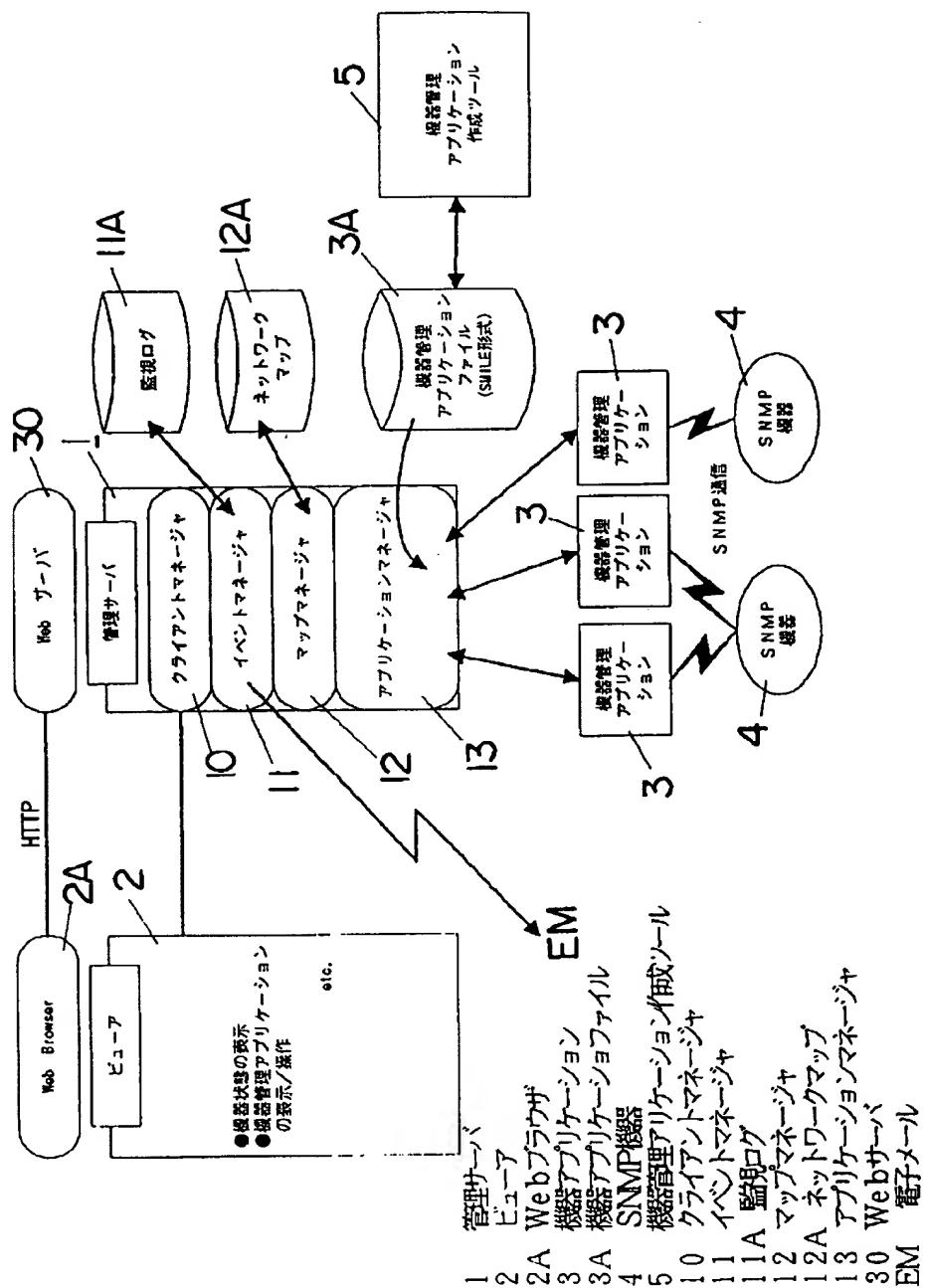
【図9】同上の機器管理アプリケーションファイルの一例を示す構成図である。

【図10】図9の機器管理アプリケーションファイルで示された機器管理アプリケーションの実行結果による表示例図である。

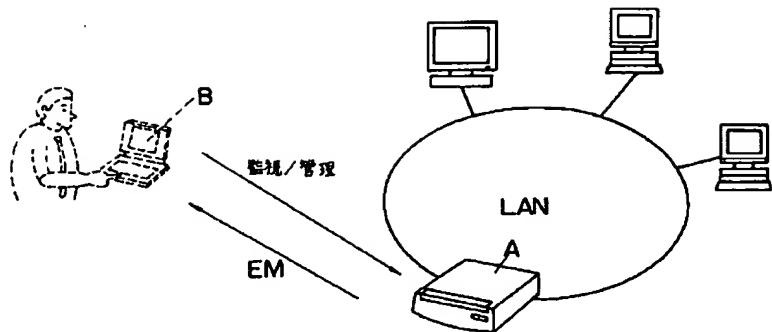
【符号の説明】

- 1 管理サーバ
- 2 ビューア
- 2A Webブラウザ
- 3 機器アプリケーション
- 3A 機器アプリケーションファイル
- 4 SNMP機器
- 5 機器管理アプリケーション作成ツール
- 10 クライアントマネージャ
- 11 イベントマネージャ
- 11A 監視ログ
- 12 マップマネージャ
- 12A ネットワークマップ
- 13 アプリケーションマネージャ
- 30 Webサーバ
- EM 電子メール

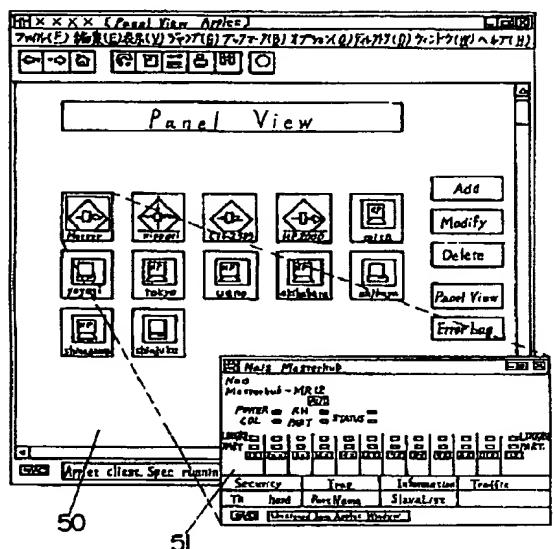
【図1】



【図2】



【図3】



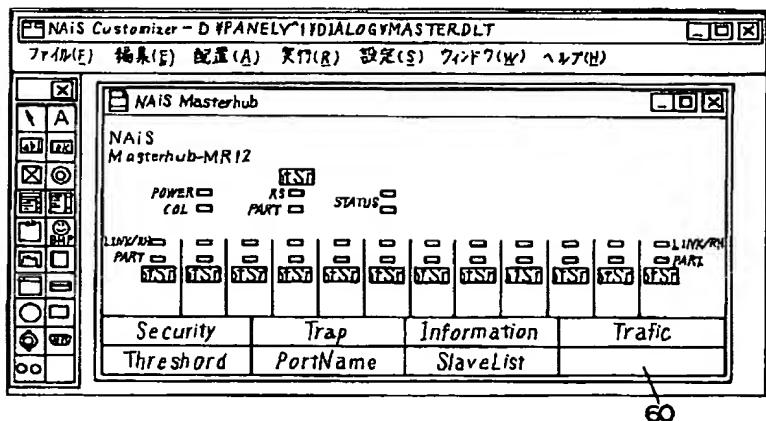
【図9】

```

DIALOG
  LOCATE 0,0,233,211
  CAPTION "test"
  POLLINGTIME 10
  GRAPH
    MAX 1500
    LOCATE 23,13,180,154
    MIB 1.3.6.1.2.1.22.2.1.1.2.1
    POLLING REPEAT
  ENDITEM
  EVENT
    TEXT "Event"
    LOCATE 23,180,64,18
    CONDITION
      ACTION Mib.Warning()
      EQUATION
        MIB 1.3.6.1.2.1.22.2.1.1.2.1
        CONVERT PER_SECOND
        COMPARE L<N
        LOW 1000
      ENDEQUATION
    ENDITEM
  ENDCONDITON
  ENDIALOG

```

【図4】



【図5】

| モード | キーワード | デフォルト | 次のモード | 値または値の型 | 意味 |
|--------|-------------|----------------|--------|--------------------|-------------------------------------|
| ROOT | VERSION | 0 | ROOT | int | ファイルバージョン |
| | DIALOG | | DIALOG | | ダイアログの定義部の開始 |
| DIALOG | LOCATE | 0, 0, 320, 240 | DIALOG | int, int, int, int | ダイアログの座標 |
| | CAPTION | "untitled" | | string | ダイアログのキャプション |
| | COORDINATE | SCREEN | | DIALOG | ダイアログ座標系 |
| | POLLINGTIME | 10 | | SCREEN | スクリーン座標系 |
| | CONFIRM | OFF | | int | ポーリング間隔(秒) |
| | ITEM | | | ON | MIBセッタ時に確認ダイアログを表示する |
| | | | | OFF | MIBセッタ時に確認ダイアログを表示しない |
| | TEXT | | | | テキストアイテム定義部の開始 |
| | EDIT | | | | エディットアイテム定義部の開始 |
| | BUTTON | | | | ボタンアイテム定義部の開始 |
| | CHECKBOX | | | | チェックボックスアイテム定義部の開始 |
| | RADIOBUTTON | | | | ラジオボタンアイテム定義部の開始 |
| | COMBOBOX | | | | コンボボックスアイテム定義部の開始 |
| | LISTBOX | | | | リストボックスアイテム定義部の開始 |
| | GROUPBOX | | | | グループボックスアイテム定義部の開始 |
| | BITMAP | | | | ビットマップアイテム定義部の開始 |
| | GRAPH | | | | グラフアイテム定義部の開始 |
| | HOTSPOT | | | | 透明ボタンアイテム定義部の開始 |
| | PART | | | | パーツアイテム定義部の開始 |
| | DIALOG | | | | サブダイアログアイテム定義部の開始 |
| | EVENT | | | | イベントアイテム定義部の開始 |
| | ENDDIALOG | | ROOT | | ダイアログ定義部の終了(DIALOGモードからROOTモードへの遷移) |

【図7】

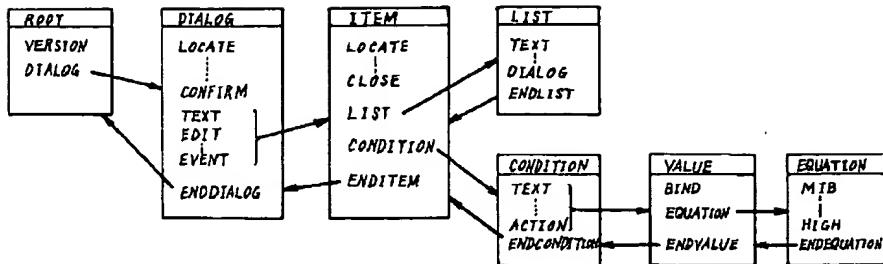
| モード | キーワード | デフォルト | 次のモード | 値または値の型 | 意味 | 対応アイテム |
|-----------|--------------|-------|-----------|--|---|-----------------------|
| LIST | TEXT | | LIST | string, string | テキストとそれに対応するMIBの値 | テキスト、コンボボックス、グループボックス |
| | FILENAME | -- | | path, string | ビットマップファイル名とそれに対応するMIBの値 | ビットマップ |
| | STATUS | 0 | | string, string | 状態とそれに対応するMIBの値 | パーツ |
| | DIALOG | -- | | path, string | ダイアログファイル名とそれに対応するMIBの値 | サブダイアログ |
| | ENDLIST | | | | リスト定義部の終了(LISTモードからITEMモードへの遷移) | . |
| CONDITION | TEXT | -- | VALUE | string | 条件が真のときに有効になるテキスト | テキスト、グループボックス |
| | FILENAME | -- | | path | 条件が真のときに有効になるビットマップファイル名 | ビットマップ |
| | STATUS | 0 | | string | 条件が真のときに有効になる状態 | パーツ |
| | DIALOG | -- | | path | 条件が真のときに有効になるダイアログファイル名 | サブダイアログ |
| | ACTION | Mail | | Mail, string | 条件が真のときに、メール送信、または、イベントマネージャに送信するアクション | イベント |
| VALUE | ENDCONDITION | | ITEM | | 条件定義部の終了(CONDITIONモードからITEMモードへの遷移) | . |
| | BIND | OR | VALUE | AND OR | 式をANDで結合する 式をORで結合する | . |
| | EQUATION | | EQUATION | | 式定義部の開始(VALUEモードからEQUATIONモードへの遷移) | . |
| EQUATION | ENDVALUE | | CONDITION | | 評価値定義部の終了(VALUEモードからCONDITIONモードへの遷移) | . |
| | MIB | -- | EQUATION | objectID | 評価するMIBのオブジェクトID | . |
| | CONVERT | RAW | | RAW | MIBの値をそのまま評価する | . |
| | | | | PER POLLING | MIBの値の直回からの差分を評価する | . |
| | | | | PER_SECOND | MIBの値の直回からの差分を時間で取ったものを評価する | . |
| | COMPARE | L=M | | L=M L=M LMCH L=MH L=MH L=MH L=MH L=MH L=MH MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM MCL=CM int int | L=M: MIBの値 L=M: MIBの値 LMCH: MIBの値CH L=MH: MIBの値>H L=MH: MIBの値<H L=MH: MIBの値CH L=MH: MIBの値CH L=MH: MIBの値CH MCL=CM: MIBの値LまたはH< MIBの値 MCL=CM: MIBの値LまたはH> MIBの値 MCL=CM: MIBの値LまたはH= MIBの値 MCL=CM: MIBの値<LまたはH> MIBの値 MCL=CM: MIBの値<LまたはH> MIBの値 MCL=CM: MIBの値と比較する値(L) MCL=CM: MIBの値と比較する値(H) | . |
| | LOW | -- | | | | . |
| | HIGH | -- | | | | . |
| | ENDEQUATION | | VALUE | | 式定義部の終了(EQUATIONモードからVALUEモードへの遷移) | . |

string: char[256], path: char[80], objectID: char[256]

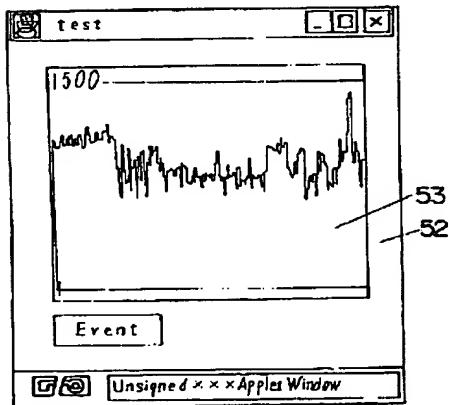
【図6】

| モード | モード | 次のモード | 運転または他の型 | 意味 | 対応アテム |
|------------|---------------|------------|---------------|------------------------------|-------|
| ITEM | LOCATE | ITEM | ITEM | アイテムコントロールの全般 | |
| MB | | ITEM | ITEM | MBのオブジェクト | |
| POLLING | FIRST | | FIRST | データログを初期にドーリングする | |
| TEXT | REPEAT | TEXT | REPEAT | 条件付でデータログする | |
| | string | TEXT | TEXT | テキスト、エディット、コンボボックス、グループボックス、 | |
| | | FUNCTION | FUNCTION | ボタン、チェックボックス、ラジオボタン、 | |
| | | | | ペンド | |
| CLICK | string | CLICK | CLICK | クリックしたときに発生するMBの値 | |
| CHECK | string | CHECK | CHECK | チェックボックスに選択するMBの値 | |
| UNCHECK | string | UNCHECK | UNCHECK | チェックボックスが選択するMBの値 | |
| FILENAME | path | FILENAME | path | フォルトファイル名 | |
| ACTION | NONE | ACTION | NONE | なし | |
| | | | | リストボックス | |
| SETREQUEST | SEREQUEST | SETREQUEST | SEREQUEST | MBをセティする | |
| | | | | データログの値元を更新する | |
| UPDATE | UPDATE | UPDATE | UPDATE | データログを更新する | |
| DIALOG | DIALOG | DIALOG | DIALOG | 既定データログファイル名 | |
| path | path | | | 既定データログファイル名 | |
| objectID | objectID | objectID | objectID | 起動するデータログに付与する | |
| | | | | リストボックス | |
| MAX | MAX | MAX | MAX | スクロール | |
| FOREGROUND | 0, 255, 0 | FOREGROUND | 0, 255, 0 | グラフの最大値 | |
| BACKGROUND | 0, 0, 0 | BACKGROUND | 0, 0, 0 | グラフの最小値 | |
| FRAME | 255, 255, 255 | FRAME | 255, 255, 255 | グラフの枠の色 | |
| CONVERT | PER_SECOND | CONVERT | PER_SECOND | MBの値をそのままで表示する | |
| SCALE | LOG | SCALE | LOG | MBの値の範囲からの値を表示する | |
| PARTNAME | LINEAR | PARTNAME | LINEAR | MBの値の範囲からの値を表示する | |
| STATUS | PER_SECOND | STATUS | PER_SECOND | MBの値の範囲を表示する | |
| CLOSE | OFF | CLOSE | OFF | 既定データログを削除する | |
| LIST | LIST | LIST | LIST | リスト定義部の削除 | |
| CONDITION | CONDITION | CONDITION | CONDITION | 条件定義部の削除 | |
| ENDITEM | ITEM | ENDITEM | ITEM | アイテム定義部の削除 (ITEMモードへの遷移) | |
| | DIALOG | DIALOG | DIALOG | アイテム定義部の削除 (ITEMモードへの遷移) | |

【図8】



【図10】



【手続補正書】

【提出日】平成10年10月9日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】請求項3の発明の目的とするところは、請求項1の発明の目的に加えて、機器管理アプリケーションファイルを書き換えるだけで、管理項目、イベントの設定変更、追加等が容易に行なえるネットワークリモート管理システムを提供することにある。請求項4の発明の目的とするところは、請求項1の発明の目的に加えて、Webブラウザが実装されている端末であれば、どの端末からでも、また、どこからでもリモート管理が行なえるネットワークリモート管理システムを提供することにある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】図1は本発明の実施形態を示しており、図1に示すように大きく別けて、ネットワーク管理装置A側での管理サーバ1と、機器管理アプリケーション3と、クライアントB（端末）側でのビューア2とから構成される。管理サーバ1はWebブラウザ2A上のビューア2から受け取った要求に応じて、SNMP（Simple Network Management Protocol）を実装したデバイスたるSNMP機器4に対し、機器管理アプリケーション3を起動せたり、停止させる。この機器管理アプリケーション3は後述する簡易管理インターフェース言語SMILE（Simple Management Interface Language）で書かれたテキストファイルからなる機器管理アプリケーションファイル3Aから構築される。ネットワーク管理者は機器管理アプリケーション作成ツール5を使用して、このテキストファイルを自由に作成することが可能であるため、それぞれのネットワー

ク構成に応じて、監視対象となる機器に対し監視すべき MIB (Management Information Base) の ID とトラブルイベントの発生レベルを設定することができる。また ftp を用いて遠隔地から機器管理アプリケーションファイル 3A を供給、上書きすることもできる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正内容】

【0017】

【表1】

| | |
|-----------|---|
| コントロール | 機能 |
| テキスト | MIB の値のテキスト表示 |
| エディットボックス | MIB の値のテキスト表示 MIB の値の変更 |
| ボタン | MIB の値のセット ダイアログのアップデート 他ダイアログの起動 |
| 透明ボタン | MIB の値のセット ダイアログのアップデート 他ダイアログの起動 |
| チェックボックス | MIB の値のトグル |
| ラジオボタン | MIB の値を複数の候補から選択 |
| コンボボックス | MIB の値を複数の候補から選択 |
| リストボックス | MIB の値をテキスト表示 MIB の値の変更 他ダイアログの起動 |
| グループボックス | MIB の値のテキスト表示 |
| ピットマップ | MIB の値で変化するピットマップの表示 |
| LED | MIB の値で色が変化する LED の表示 |
| グラフ | MIB の値のグラフ表示 |
| イベント | イベントの監視と送信 |

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正内容】

【0024】図 8 は SMILE の各キーワードを使用した場合のモードの遷移を示しており、この遷移図に基づいて使用できるキーワードが限定されてファイルは記述されることになる。図 9 に示す機器管理アプリケーションファイル 3A は上記 SMILE の言語を用いて記述されており、この図 9 の場合第 1 行はダイアログ定義部の開始を示す行であり、第 2 行はダイアログの座標を示し、第 3 行はダイアログのキャプションが “test” であることを示し、第 4 行はポーリングの間隔が 10 (秒) であることを示し、第 5 行はグラフアイテム定義部の開始を示し、第 6 行はグラフの最大値 (=1500) を示し、第 7 行はアイテム (グラフ表示) の座標を示し、第 8 行は取得する MIB のオブジェクト ID を示し、第 9 行は定期的にポーリングを行なうことを示し、第 10 行はアイテム定義部の終了を示す。第 11 行はイベントアイテム定義部の開始を示し、第 12 行はイベン

トの名称を示し、また第 13 行はアイテムの座標を示し、第 14 行は条件定義部の開始を示し、第 15 行は条件が真のときにメールを送信することを意味することを示し、第 16 行は式定義部の開始を示し、第 17 行は評価する MIB のオブジェクト ID を示し、第 18 行は MIB の値の前回からの差分を時間で割ったものを評価することを示し、第 19 行は条件式を示し、第 20 行は MIB の値と比較する値 (=1500) を示し、第 21 行は式定義部の終了を示し、第 22 行は VALUE 定義部の終了を示し、そして第 23 行は条件定義部の終了を示し、第 24 行はアイテム定義部の終了を示し、第 25 行はダイアログ定義部の終了を示している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正内容】

【0025】而して、図 9 に示す機器管理アプリケーションファイル 3A に対応する機器管理アプリケーション 3 をビューア 2 から起動すると、管理サーバ 1 上に機器管理アプリケーション 3 の実行スレッドが構築される。このスレッドは `rptrMonitorGroup Total Frames` 1 の MIB を定期的に監視し、グラフコントロールの表示を行なうためのデータ収集を行なうとともに、毎秒のパケット数が 1500 をオーバーしないかを監視する。パケット数が 1500 を越えた際にはイベントマネージャ 1 にメッセージが通知され、イベントマネージャ 1 からネットワーク管理者に電子メール EM が送信される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【符号の説明】

- 1 管理サーバ
- 2 ビューア
- 2A Web ブラウザ
- 3 機器管理アプリケーション
- 3A 機器管理アプリケーションファイル
- 4 SNMP 機器
- 5 機器管理アプリケーション作成ツール
- 10 クライアントマネージャ
- 11 イベントマネージャ
- 11A 監視ログ
- 12 マップマネージャ
- 12A ネットワークマップ
- 13 アプリケーションマネージャ
- 30 Web サーバ

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正内容】
【図1】